

徳島県歯科技工士会 第 106 回生涯研修（基本研修課程）

2025 年 12 月 7 日（日）

講師：畑山賢伸先生（日技認定講師 東京都歯科技工士会）

①教養課程 情報管理

【演題】

『これだけは知っておきたい

インプラント上部構造製作のために必要な情報と知識』

【抄録】

長期に安定した機能的、審美的なインプラント治療を行うには、歯科技工士が初期の段階から治療計画に参加し、全ての症例において、単純に歯冠外形を回復させるだけではなく、補綴ならびに外科的要件を満たした診断用ワックスアップを行う必要があります。診断用ワックスアップを行う上で、模型以外の各種情報が必要となりますが、実際は、歯科技工士は情報が少ない状態で作業を行う場合が多く、院内ラボであれば追加で情報を収集しやすいですが、コマーシャルラボではなかなか困難であることが予想されます。また、そもそもどのような情報が必要なのか？ 歯科医師がインプラント埋入シミュレーションを行う上で、どのような項目を確認しているのか？ などの専門的な知識を学ぶ機会も少ないと思われます。

本講演ではインプラント治療に必要な情報と知識を整理し、診断用ワックスアップを行う上でのポイントについて解説したいと思います。

②専門課程 インプラント補綴技工学

【演題】

『オールラウンダーを目指す！ とは！！ 基礎の充実！！！』

【抄録】

何ごとにも得手不得手があるように、ともに働く歯科医師にも、もちろん得手不得手があります。歯科医師に補綴分野での不得手があれば、補綴装置製作に携わるプロとして、歯科技工士が歯科医師をサポートすることが重要です。当然ですが、広そうで狭い補綴の世界、様々な分野の知識、技術が相互に関連しています。歯科技工士に一つでも不得手な補綴分野があれば、十分なサポートを行うことはできません。

さまざまな補綴分野の関連性を明確にし、深めていくためには、基本的な知識・技術（咬合平面の設定基準、排列位置など総義歯の概念や、歯冠形態や咬合接触、咬合様式などのクラウンブリッジの概念など）が土台になってくれます。つまり、オールラウンダーを目指し続けることで足元（土台）がしっかりとし、道がどんどん開けていくと私は考えています。

講演会専門課程では、単独歯から全顎補綴装置製作、チェアサイドと連携した具体的なインプラント上部構造製作の実際や、マテリアル選択の考え方についてお話しさせていただきます。明日からの臨床にお役立ていただけましたら幸いです。

講師紹介

畑山 賢伸

はたやま たかのぶ TAKANOBU HATAYAMA

1998年 新東京歯科技工士学校 卒業
1999年 鶴見大学歯学部歯科技工研修科基礎課程 卒業
2000年 鶴見大学歯学部歯科技工研修科上級課程 卒業
2002年 株式会社 協進歯研 勤務
2012年 MALO CLINIC TOKYO 勤務
2023年 MALO DENTAL&MEDICAL TOKYO 勤務

2011年 日本臨床歯科補綴研修会基本8ヶ月コース受講
2012年 総義歯ライブ2日間コース受講
2012年 BPS セットアップコース受講
2013年 吉澤セミナー

【受賞歴】

2000年 歯型彫刻コンテスト『ほるほる』審査員賞
2006、2007年 東京入れ歯コンテスト 技工大賞
2008年 東京入れ歯コンテスト 特別賞

日本口腔インプラント学会 認定専門技工士
日本顎咬合学会 認定技工士
生体機能補綴システム（BPS）認定技工士
日本歯科技工学会
日本歯科技工士会認定講師
D-TECHNICATIONS
新東京歯科技工士学校 技新会理事



<https://www.facebook.com/kenshin.hatayama.755>



<https://www.malodental.com>

- 全顎即時荷重インプラント治療のプライオリティ All-On-4 治療の正しい理解と操作手順
【歯科技工 2018 年 7 月号掲載】
- インタビューと症例から探る若手臨床家のラーニングカーブ step ahead No.123
【QDT 2020 年 4 月号掲載】
- Technication 第 3 回: 指標となるテクニケーションコマーシャルラボ編
【QDT 2012 年 9 月号掲載】